

2006年3月期
第3四半期説明会

2006年2月9日
ヤマハ株式会社

2006/3期 3Q決算の概要



< 3Qの状況 >

3Q売上高は、リビングが好調を継続したものの、楽器、AV、半導体が期待値に届かず、全体では、中間決算発表時(10/31)の前回予想に対し2.5%の減収。

一方、対前年同期では、円安効果や設備音響機器の売上増で楽器が増収となったことに加え、AV、リビング等も増収となり、全体では3%の増収となった

営業利益は、リビングを除く全セグメントで対前回予想減益乃至損失幅拡大

< 1～3Qの状況 >

4～12月の3四半期累計では、リビングが増収増益。楽器が増収減益。半導体、AVは減収減益。特に半導体は100億円を超える減益

3Q末在庫は、楽器、AVを中心に前回予想、前年同期を上回っており、期末にかけて在庫の縮小を目指す

2006/3期 3Q業績概要



▶ 対前年同期増収減益、対前回予想では減収減益

(億円)

	05/3 (3Q) 実績	06/3 (3Q) 実績	前年 同期比	前回予想 (05/10/31)	前回予想比
売上高	1,449	1,492	+ 3.0%	1,530	2.5%
営業利益 (営業利益率)	139	115 (7.7%)	17.1%	142	19.0%
経常利益 (経常利益率)	164	142 (9.5%)	13.7%	164	13.4%
当期利益 (当期利益率)	254	109 (7.3%)	57.0%	111	1.8%

持分法損益

35

39

38

為替レート

売上高

US\$

106

117

105

EUR

137

139

134

利益

US\$

107

116

105

EUR

134

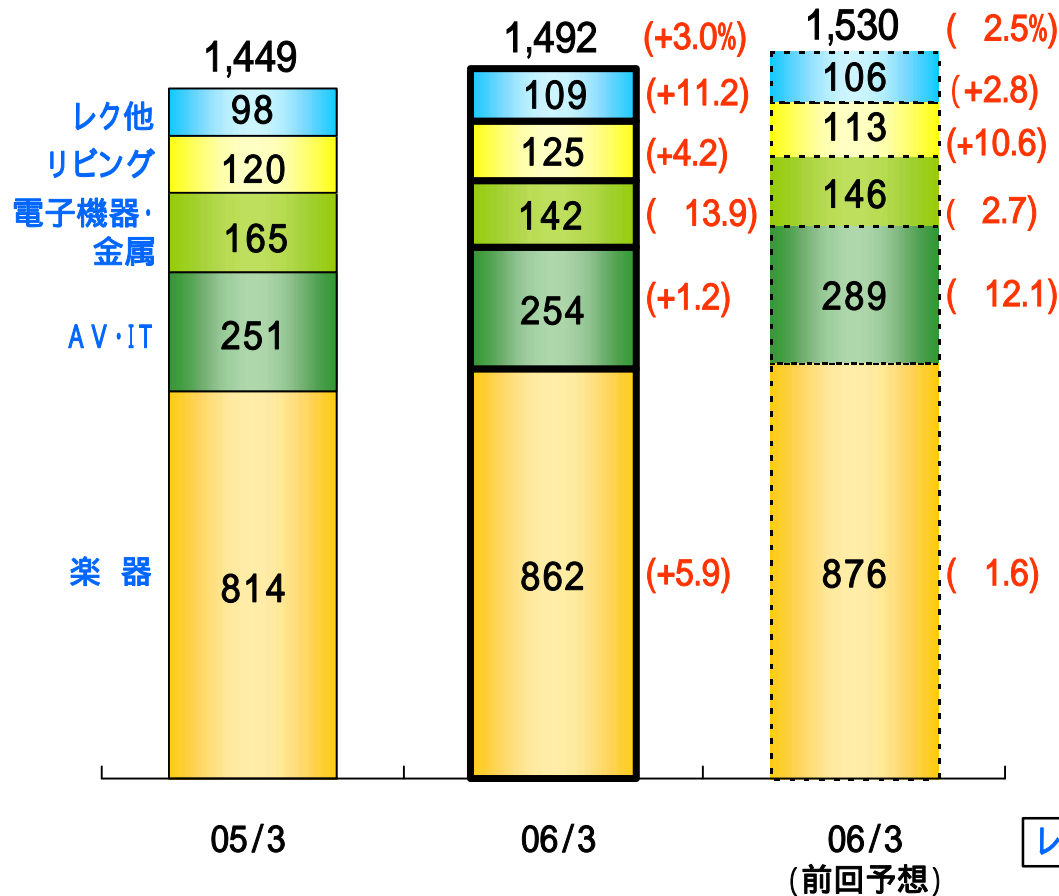
135

134

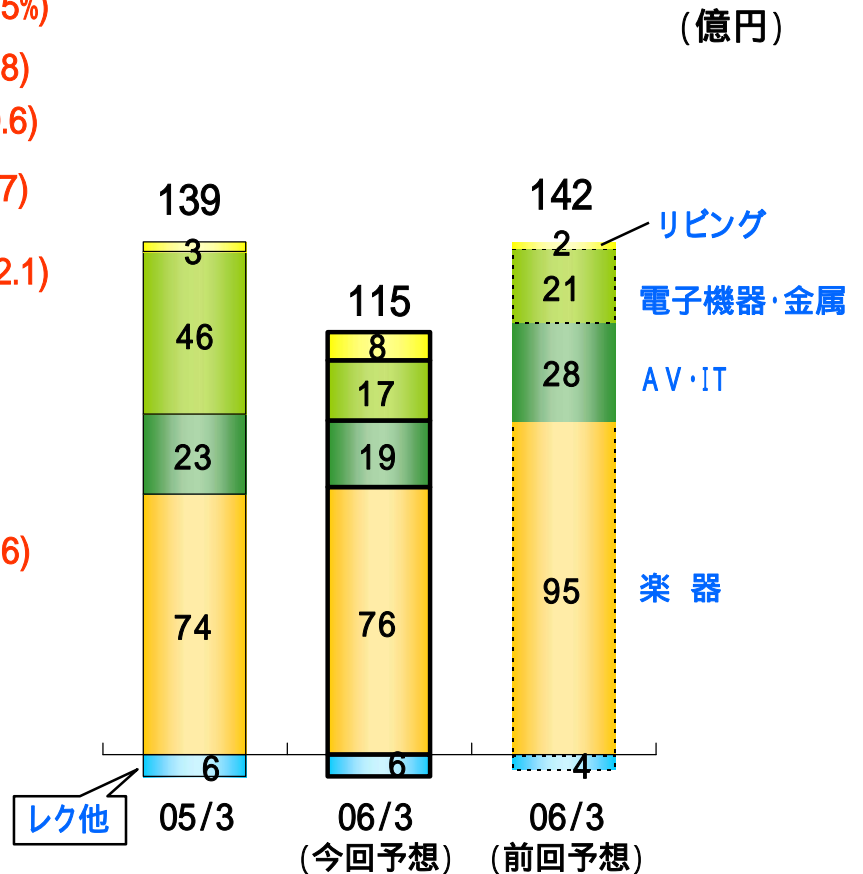
2006/3期 3Q事業別業績



売上高



営業利益



()内は前年同期比
または
前回予想比

前年同期との比較での為替影響は+44億円
(楽器+34億円、AV・IT+10億円)
また、前回予想との比較では+54億円
(楽器+40億円、AV・IT+14億円)

前年同期との比較での為替影響は+7億円
(楽器+9億円、AV・IT 1億円)
また、前回予想との比較では+8億円
(楽器+11億円、AV・IT 2億円)

2006/3期 業績予想



>4Q為替レートは、US\$=110円、EUR=134円を前提
 >通期予想は前回予想に対し減収減益 (億円)

(%)

	1Q~3Q 実績	4Q 予想	06/3期 (今回予想)	06/3期 (前回予想)	05/3期 実績	前回予想 変化率	前年実績 変化率
売上高	4,064	1,226	5,290	5,365	5,341	1.4%	1.0%
営業利益	258 (6.3%)	18	240 (4.5%)	325 (6.1%)	357 (6.7%)	26.2%	32.8%
経常利益	355 (8.7%)	5	350 (6.6%)	415 (7.7%)	413 (7.7%)	15.7%	15.3%
当期利益	275 (6.8%)	15	260 (4.9%)	290 (5.4%)	197 (3.7%)	10.3%	+32.0%

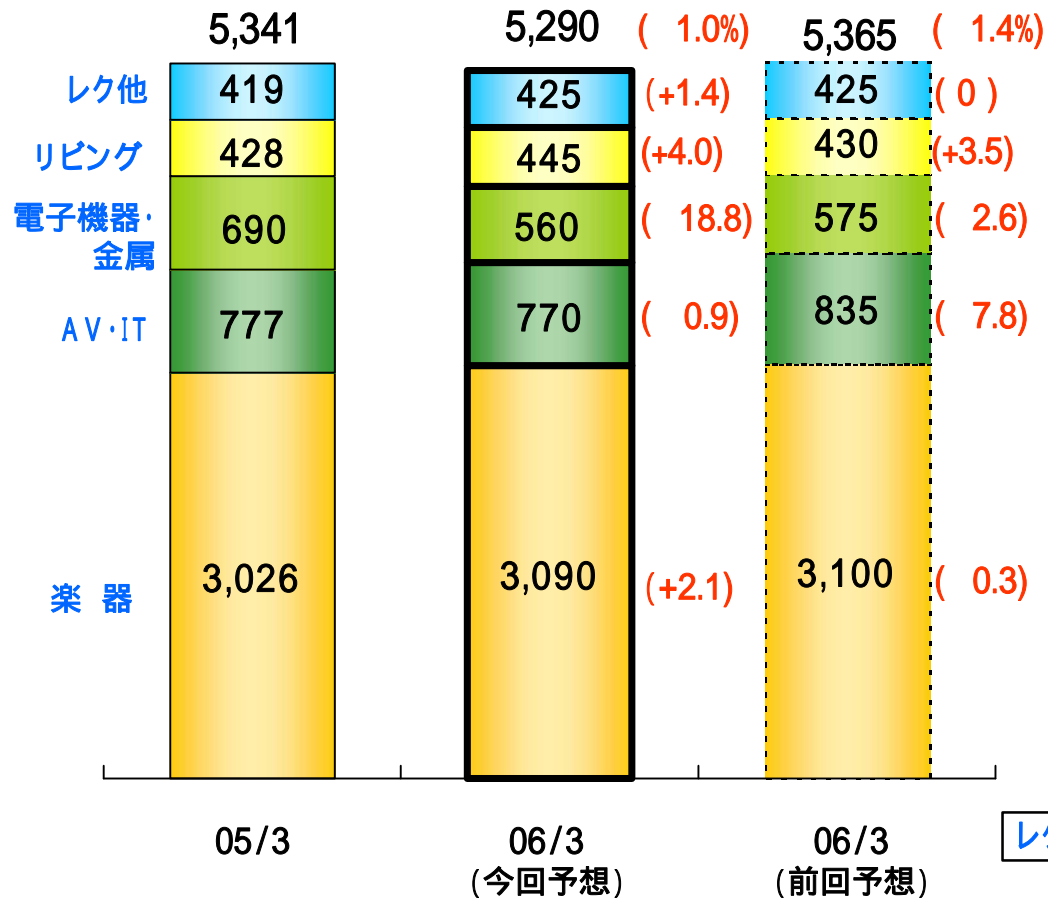
持分法損益 124 24 148 137 91

為替レート	1Q~3Q 実績	4Q 予想	06/3期 (今回予想)	06/3期 (前回予想)	05/3期 実績
売上高	US\$	112	112	107	108
	EUR	137	134	135	135
利益	US\$	112	111	108	109
	EUR	134	134	134	133

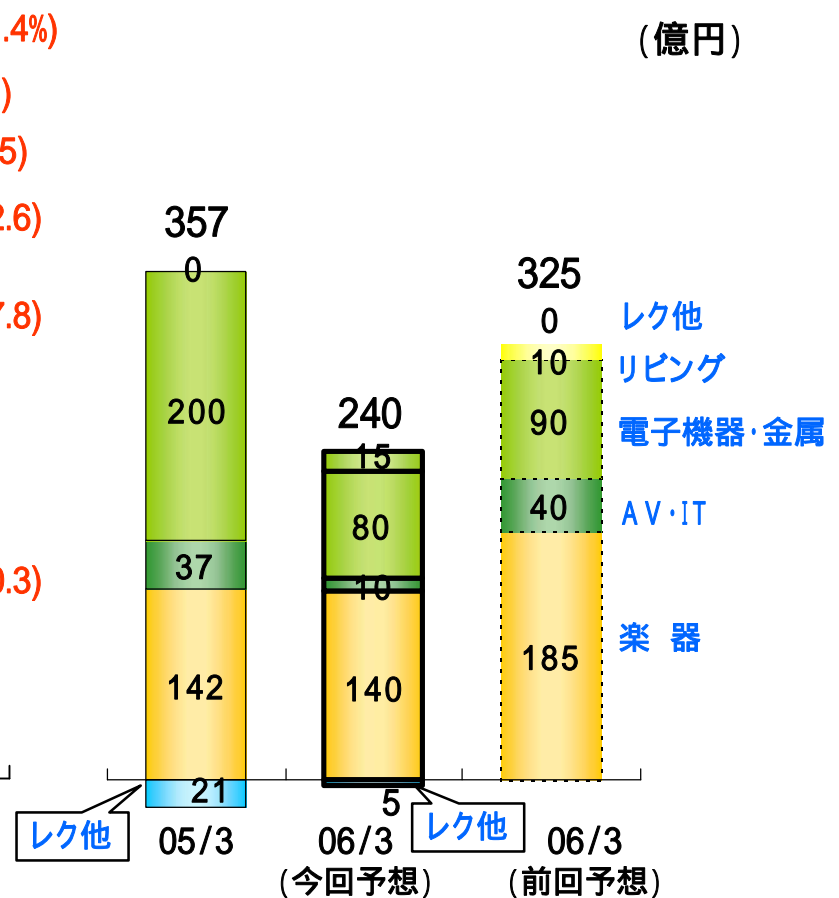
2006/3期 通期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前期比
または
前回予想比

前期との比較での為替影響は +68億円
(楽器 +53億円、AV・IT +15億円)
また、前回予想との比較では +65億円
(楽器 +49億円、AV・IT +16億円)

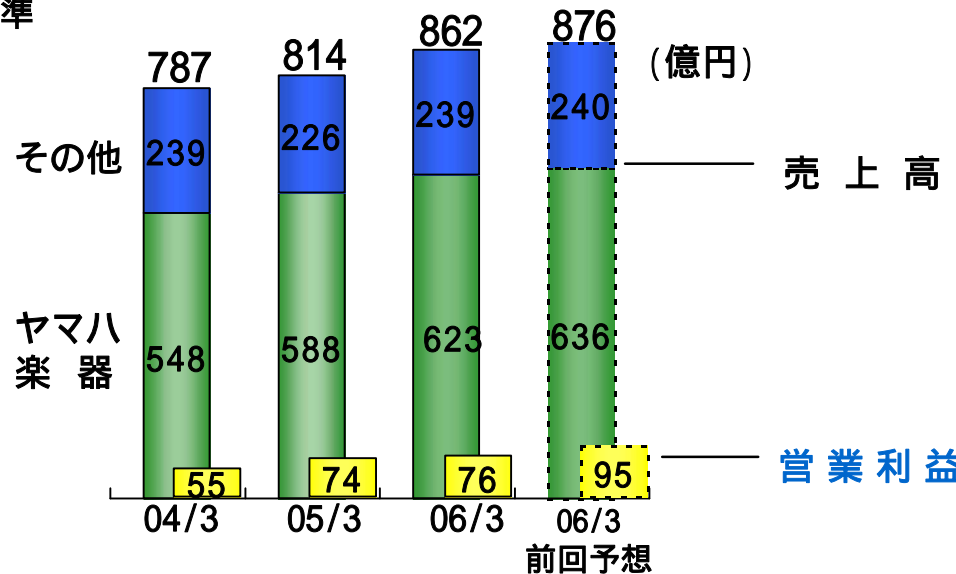
前期との比較での為替影響は +14億円 (楽器 +16億円、
AV・IT 1億円、電子機器・金属 1億円)
また、前回予想との比較では +10億円 (楽器 +14億円、
AV・IT 3億円、電子機器・金属 1億円)

楽器事業



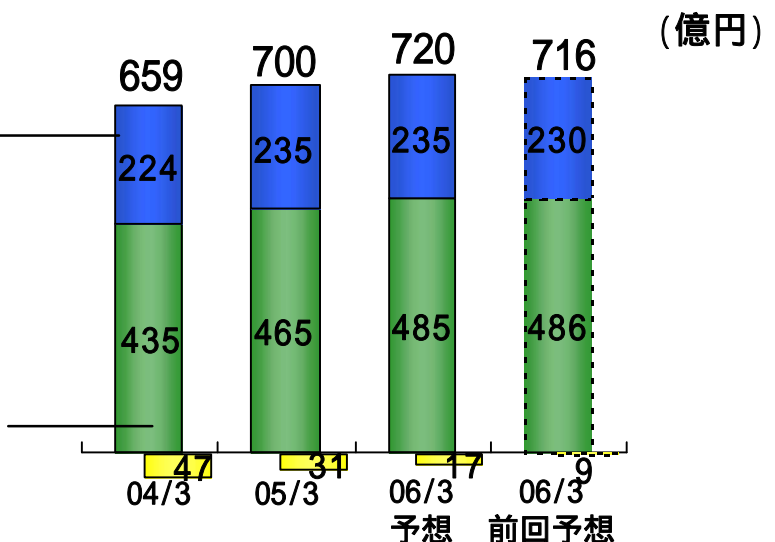
3Qの状況

- ・円安メリットもあり、対前年同期増収増益
- ・為替影響を除いた3Q実質売上高は、前年同期比1.6%の増収。設備音響機器が欧米を中心に伸長。期待の高級キーボード「Tyros 2」は、欧州中心に予定通りの出荷
- ・前回予想との比較では 6.2%の減収。ピアノ、電子楽器、弦打楽器が予想を下回る
- ・国内は、エレクトーンを除けば、ほぼ前年同期並みの売上となった
- ・韓国好調持続。中南米も順調な出荷
- ・営業利益は、為替益があるものの、売上構成の変化による売上総利益率の低下、物流費等の販管費の増加により、対前回予想減益
- ・3Q末在庫は、売上計画未達で、対前年同期、前回予想を上回る水準



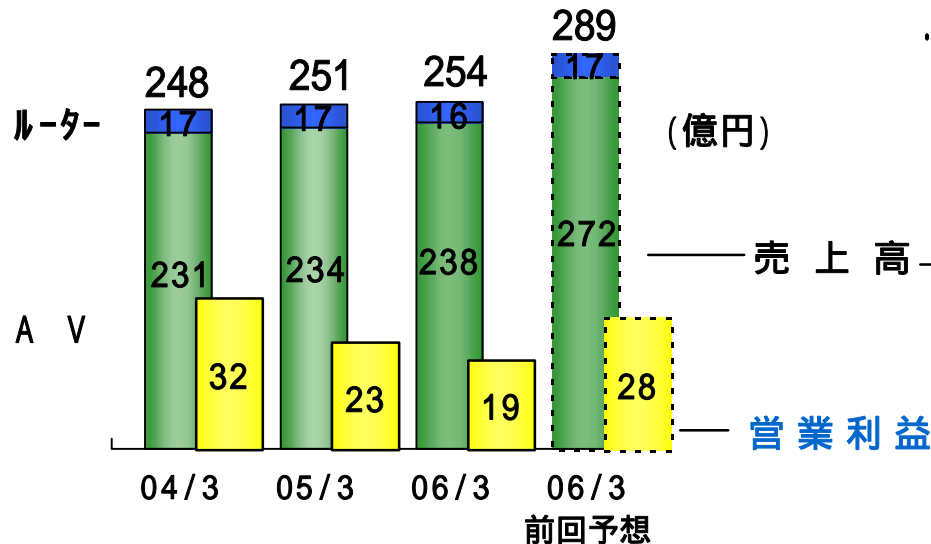
4Qの予想と重点施策

- ・通期営業利益を下方修正
- ・為替見直し影響を除いた4Q実質売上高は、前回予想並みの計画。国内は減収、北米は増収の計画
- ・営業利益は、減産影響等により、対前回予想減益
- ・収益体質強化のための重点施策の推進加速化
 - 売上拡大(国内市場、中国、設備音響ビジネス、高付加価値商品)
 - コストダウン(製造改革、人材開発、業務プロセス改革)
- ・電子楽器を中心とする減産により、期末在庫を382億円まで圧縮



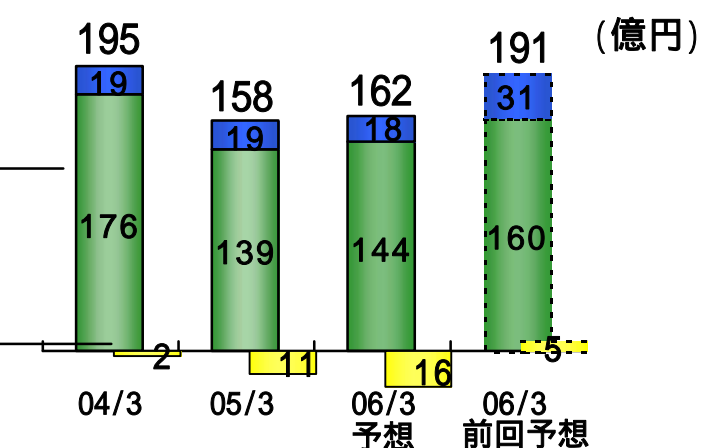
3Qの状況

- ・対前年増収減益
- ・3Q実質売上高は、前年同期比 2.8%の減収 (前回予想との比較では 17.0%の減収)
- ・AVは年末も、北米引き続き好調。国内、欧州低調。アジアは期待を大きく下回っている
- ・期待の「YSP」は、第3四半期(4月～12月)までで、39億円(57,000台)の出荷
- ・ルーターは競争激化で対前年同期、前回予想に対し減収
- ・営業利益は、減収に加え、円安に伴う為替損の発生で、前年同期、前回予想とも減益
- ・3Q末在庫は、前年同期、前回予想に対し増加



4Qの予想と重点施策

- ・4Q売上高は、前回予想を下方修正し、前年同期並みの162億円の計画。減収に伴い、通期営業利益も40 10億円へ大幅下方修正
- ・「YSP」ビジネス強化、拡大
 - 販売網整備、デモ環境整備、OEM対応
- ・中高級AVレシーバーを中心とする既存ホームシアター拡販
- ・旧モデル在庫の早期一掃と新商品のスムーズな市場導入
- ・小型高音質の携帯デジタルオーディオ商品等の新規商品、市場導入
- ・ルーター新製品導入による競争力確保
- ・通信カラオケは次期モデル商品開発の推進

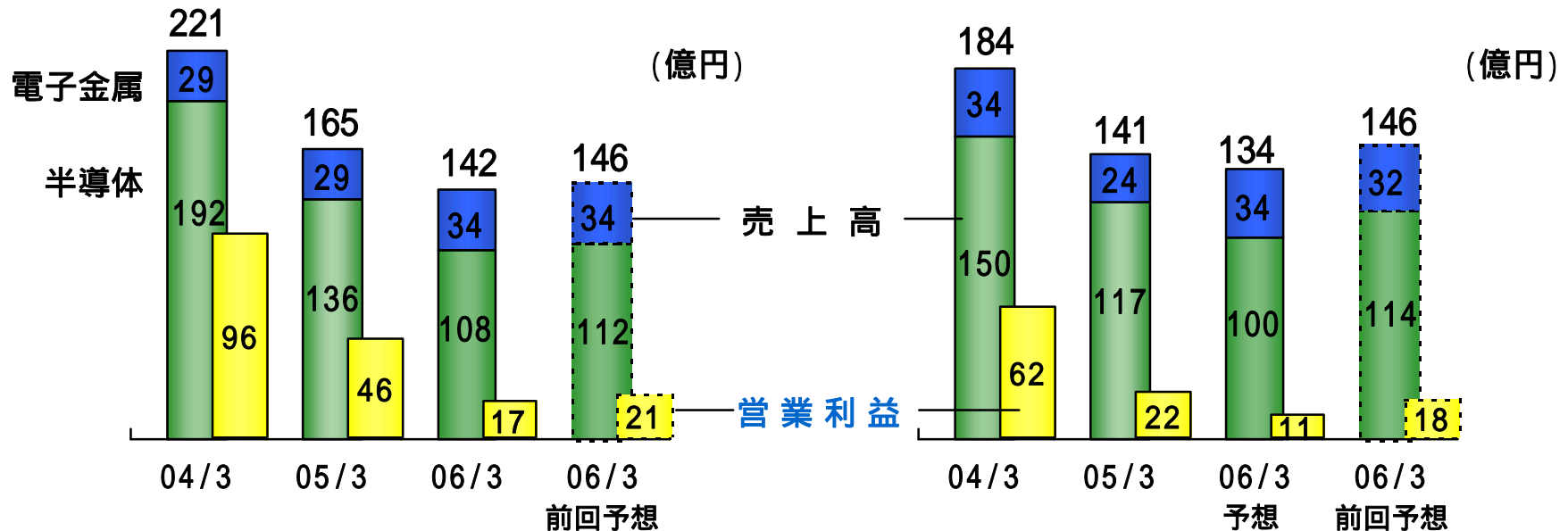


3Qの状況

- ・ 前年同期、前回予想に対し減収減益
- ・ 半導体は、携帯電話用LSIの需要減と単価下落、またアミューズメントも、総需要の減少に伴い減収となり、対前年同期営業利益半減
- ・ 電子金属はデジタル家電市況が緩やかに回復し、対前年同期増収
- ・ 一方、営業利益は金属価格の高騰で若干の減益

4Qの予想と重点施策

- ・ 4Q売上高及び営業利益を下方修正
- ・ 携帯電話用LSIは、単価下落継続。高音質高機能商品の拡販でシェア維持を目指す
- ・ 次期モデル用アミューズメント画像LSIの着実な市場導入
- ・ 電子金属材料は、原価低減継続と銅系コネクター材の量産化

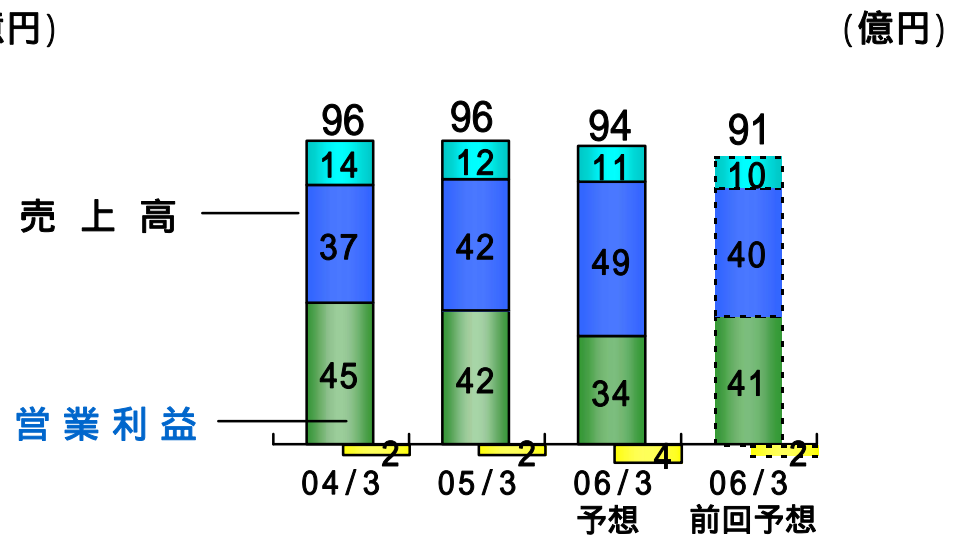
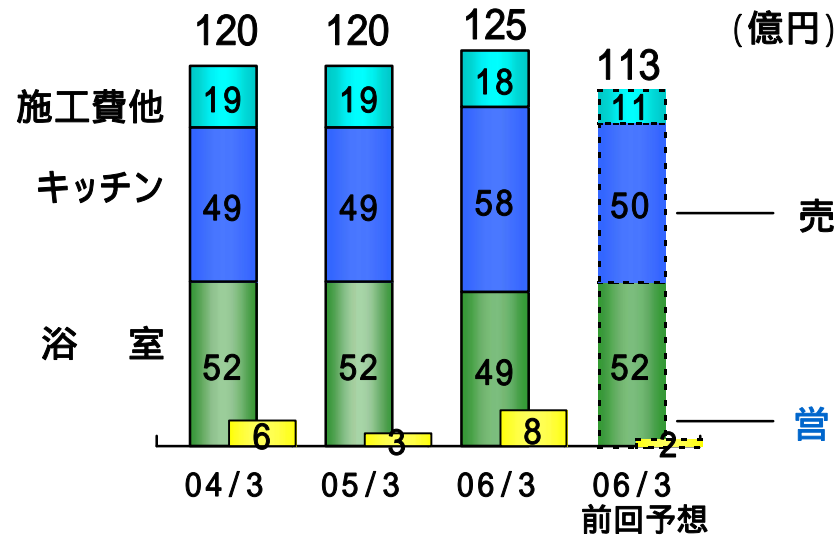


3Qの状況

- ・ 対前年同期、前回予想とも増収増益
- ・ 引き続き、「マールシンク」キッチンが好調継続
- ・ 浴室は10月より、新商品投入するものの、普及価格帯を中心に価格競争激化し、前年同期及び前回予想に対し減収
- ・ 営業利益は、増収および製造原価の低減に伴う売上総利益の増加に加え、人件費を中心とする固定費の減少により、前年同期に対し大幅な増益

4Qの予想と重点施策

- ・ 4Q売上高は、前回予想微増の94億円の計画
- ・ 春の新商品の確実な市場導入
- ・ ショールーム機能拡充とリフォームビジネス戦略強化
- ・ 生産技術力強化と製造原価低減



レクリエーション事業

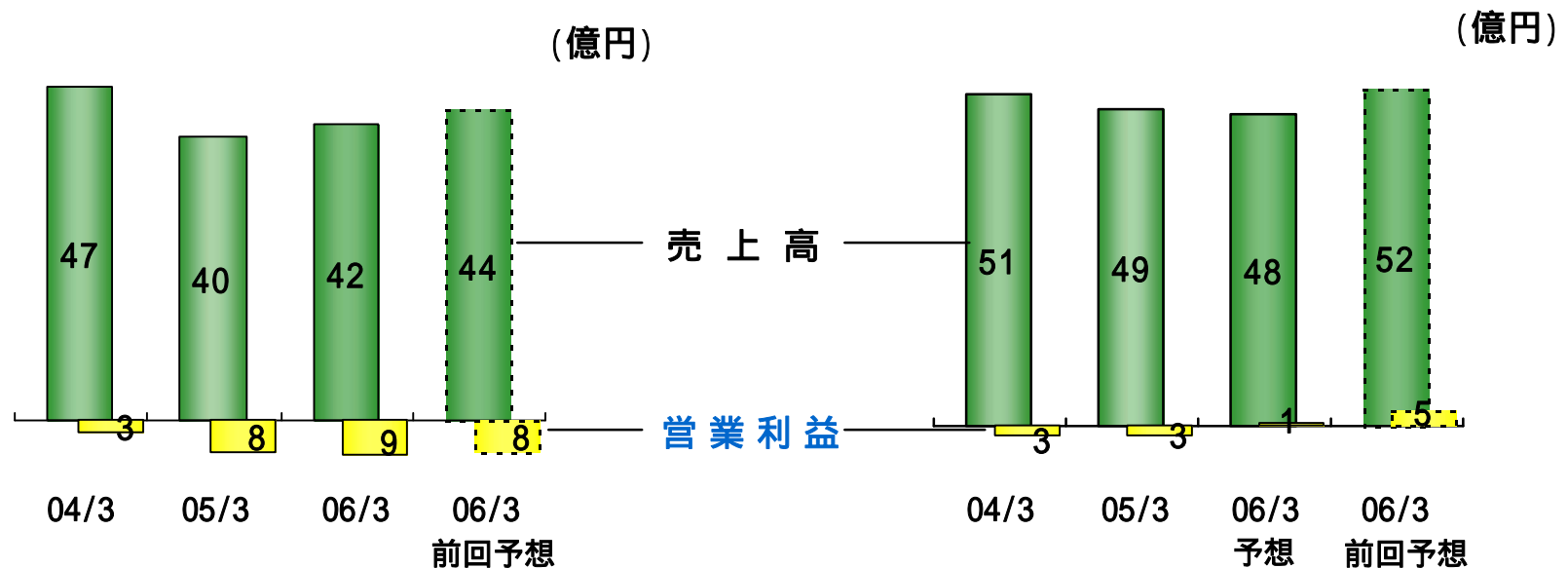


3Qの状況

- ・ 3Q売上高は増室に伴う集客増、宿泊単価アップもあり、対前年同期増収
- ・ 営業利益は、増収に加え、減価償却費の減少による損益改善はあるものの、「キロロ」ゲレンデ改修工事による費用増で若干の対前年同期減益
- ・ 前回予想との比較では、減収減益

4Qの予想と重点施策

- ・ 4Qは前回予想に対し減収減益の計画
- ・ ゲレンデ改修の「キロロ」での日帰り客確保が最大のテーマ
- ・ 各施設とも、集客数確保施策の展開と一層の営業効率向上により収益改善を目指す



その他事業

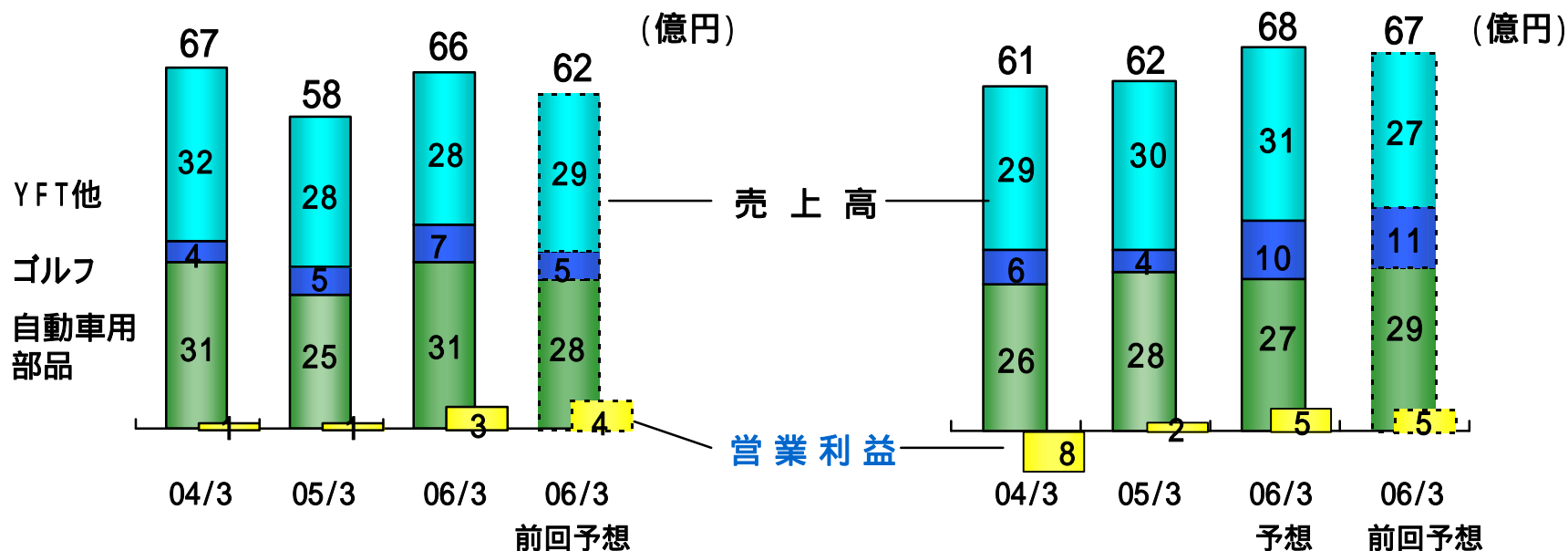


3Qの状況

- ・ セグメント全体では、対前年同期、前回予想とも増収
- ・ 自動車用内装部品は、新規顧客の開拓奏功し、対前年同期増収増益
- ・ 部品・金型事業はFA好調継続。Mg部品は携帯電話用、デジタルカメラ用とも受注増加
- ・ ゴルフは新商品市場投入し、対前年同期、対前回予想とも増収

4Qの予想と重点施策

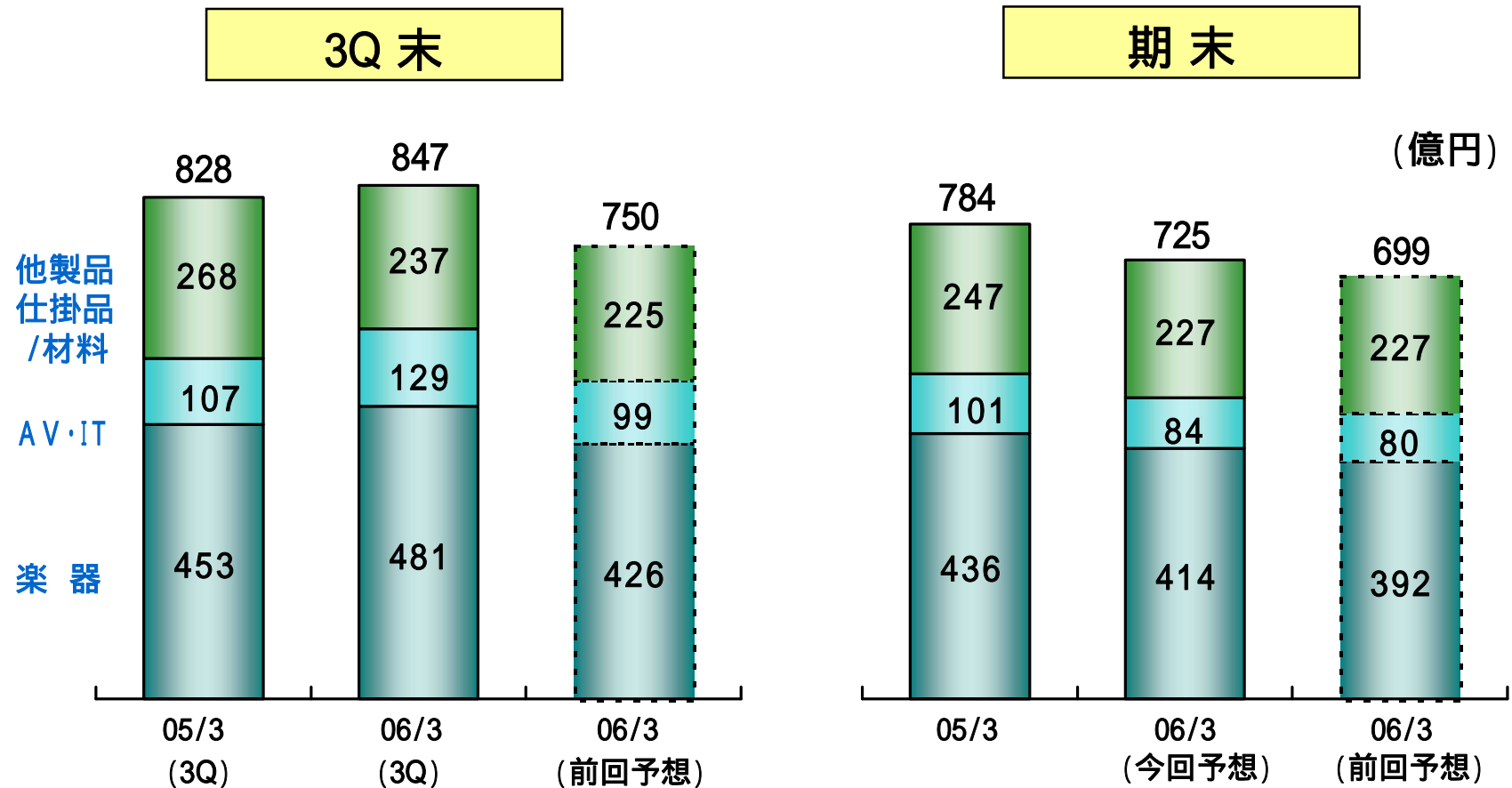
- ・ 4Q売上高は、前年同期、前回予想を上回る68億円の計画。営業利益は前回予想を据置
- ・ 特に、Mg部品は生産量大幅増で生産能力確保と歩留まり向上が課題
- ・ 自動車用内装部品は新製法の確立によるコスト競争力確保



棚卸資産



➤3Q末在庫は前回予想及び前年同期に対し増加
期末にかけて、減産を含めて、在庫の圧縮を図る



付属資料

2006/3期 3Q営業外損益、特別損益



	05/3(3Q)実績	06/3(3Q)実績	06/3 (3Q) 前回予想
			(億円)
営業外損益			
持分法利益	34	39	38
金融収支	2	1	3
その他	7	10	13
計	+ 25	+ 28	+ 22
特別損益			
固定資産処分損益	1	2	2
減損損失			
その他	197	1	0
計	+196	1	2
法人税他			
法人税等	106	30	50
少数株主持分	0	1	1
計	106	31	51

年金代行
返上益

2006/3期 通期営業外損益、特別損益

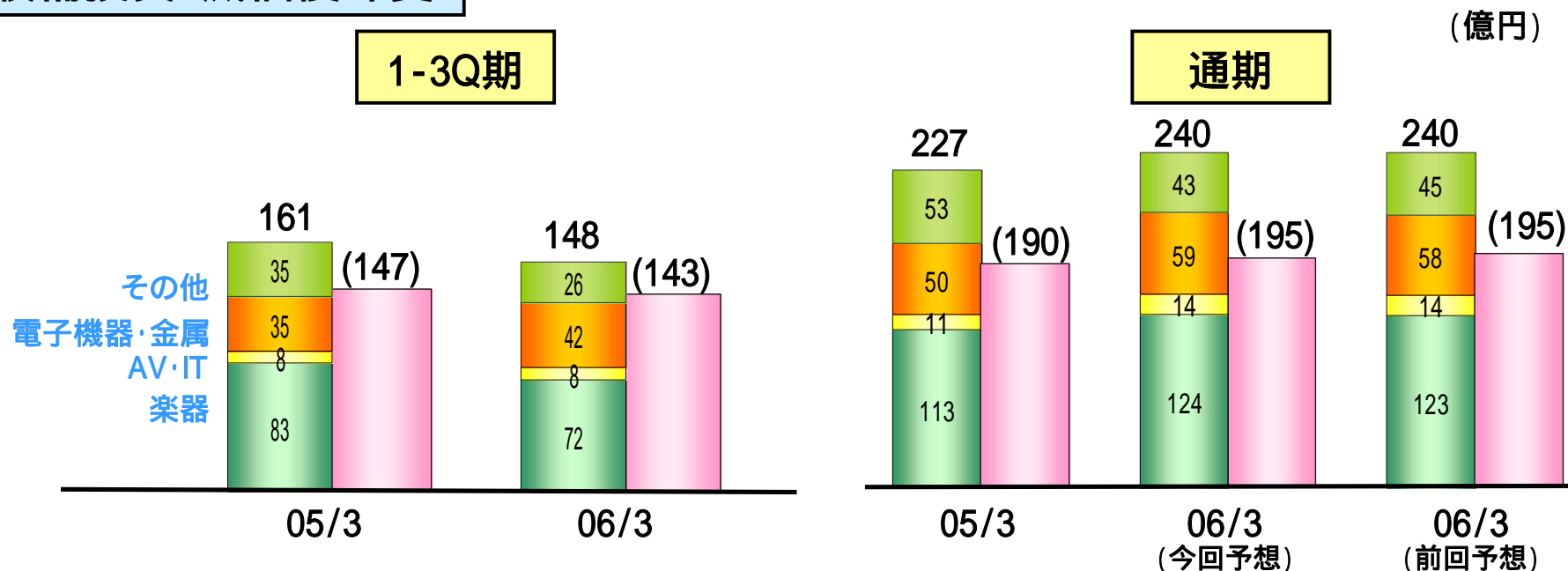


	05/3実績	06/3今回予想	06/3前回予想
(億円)			
営業外損益			
持分法利益	91	148	137
金融収支	3	2	6
その他	32	36	41
計	+ 56	+ 110	+90
特別損益			
固定資産処分損益	11	1	0
その他	67	1	0
	<ul style="list-style-type: none"> ・代行返上益 199 ・資産処分益等65 ・減損損失 327 		
計	78	0	0
法人税他			
法人税等	134	86	121
少数株主持分	4	4	4
計	138	90	125

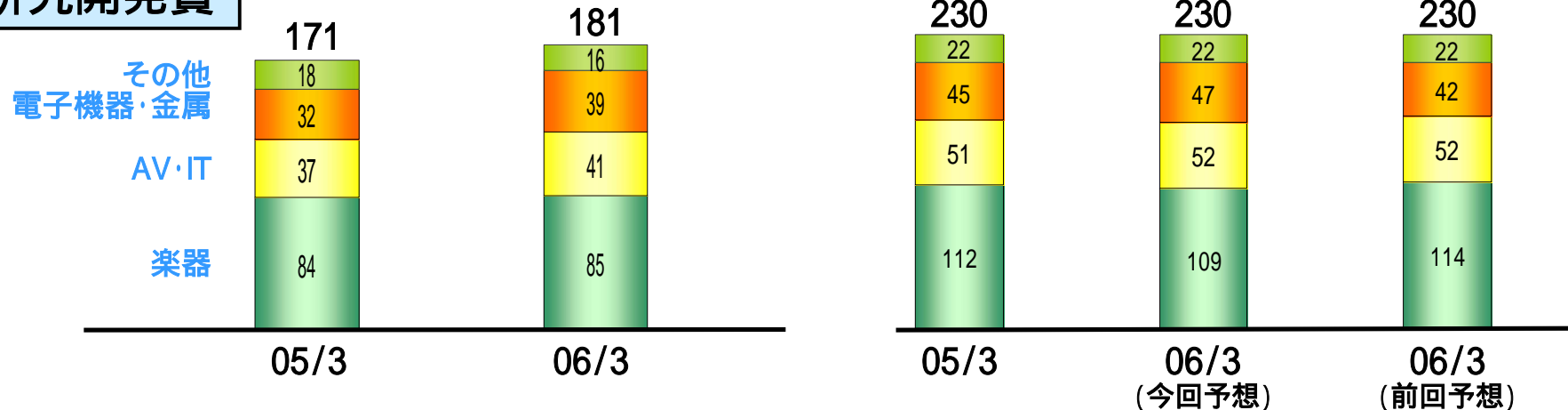
設備投資・減価償却費 / 研究開発費



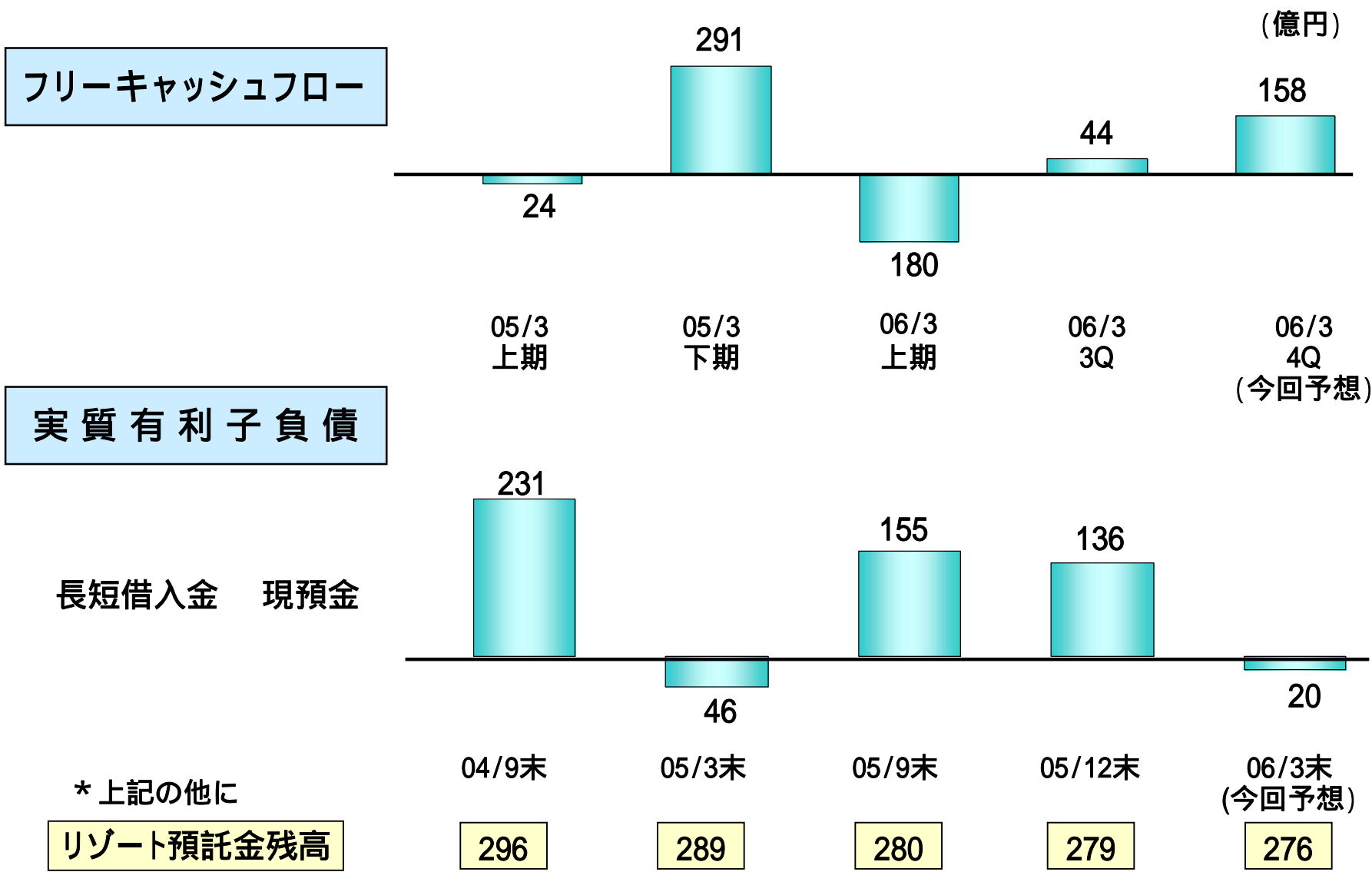
設備投資・減価償却費



研究開発費



実質有利子負債



予想貸借対照表



(億円)

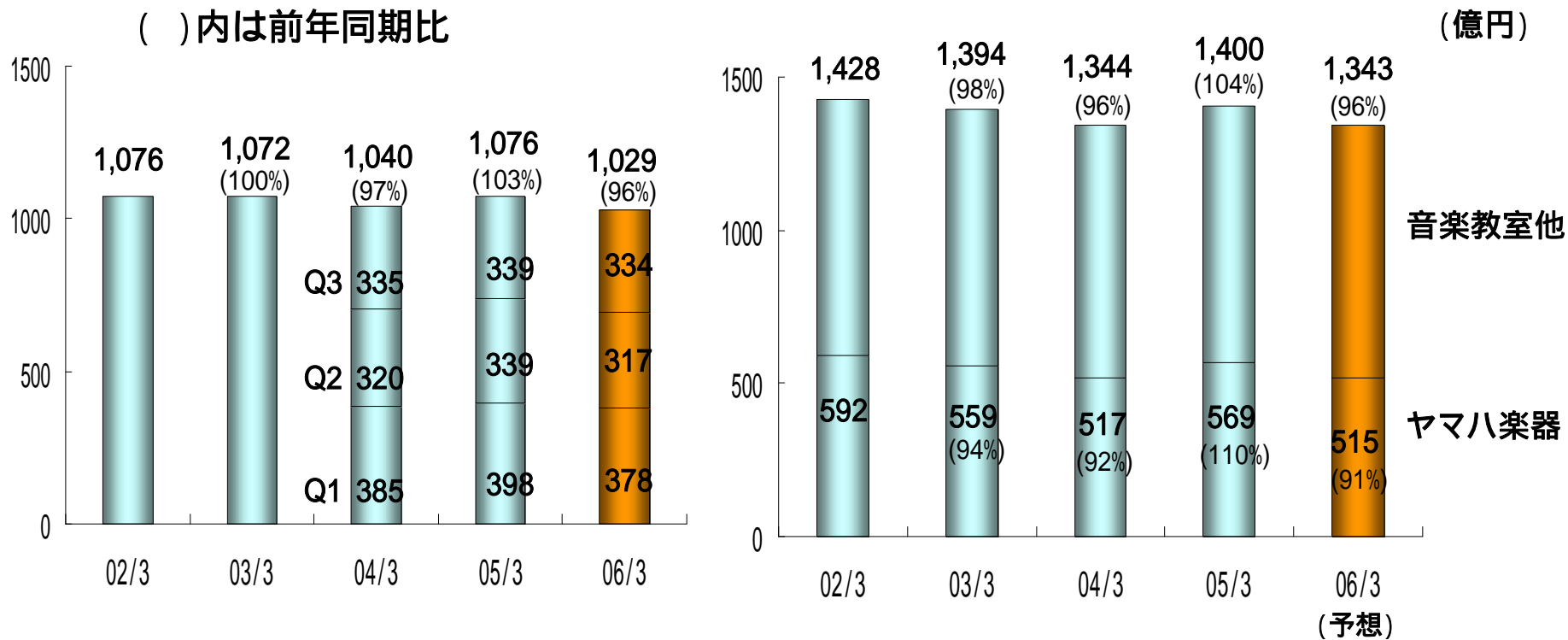
	3Q末			期末		
	04/12末	05/12末	増減	05/3末	06/3末	増減
現預金	428	300	128	512	278	234
売上債権	893	886	7	716	746	30
棚卸資産	828	847	19	784	725	59
他流動資産	254	249	5	244	239	5
固定資産	2,803	3,033	230	2,800	3,069	269
資産計	5,206	5,315	109	5,056	5,057	1
仕入債務	407	404	3	377	394	17
借入金	648	436	212	466	258	208
他負債	1,379	1,320	59	1,461	1,340	121
資本計	2,772	3,155	383	2,752	3,065	313
負債・資本計	5,206	5,315	109	5,056	5,057	1

* 他負債に少数株主持分を含む

日本市場のヤマハ楽器販売状況



エレクトーン「STAGEA」が需要一巡し、3Qまでの累計売上高は対前年同期46億円の66億円。エレクトーンを除けばほぼ前年同期並み。生徒増に伴い、音楽教室収入は3%(+8億円)の増。



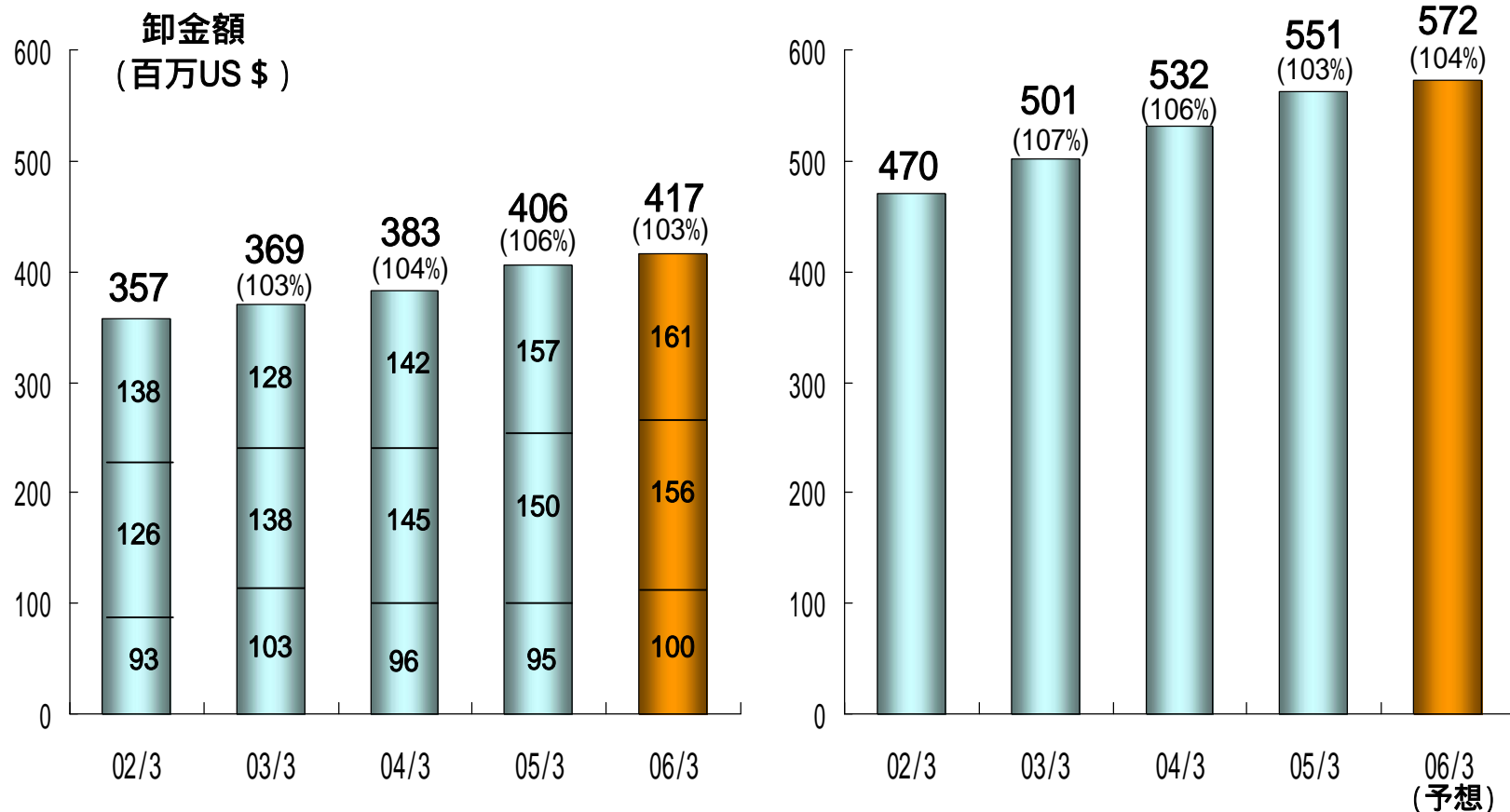
1~3Q 実績

通期 ベース

アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



3Q累計売上高は好調な米国楽器市場に牽引され、対前年同期比103%。デジタルミキサー中心にPAが前年同期比118%と好調をキープ。管楽器も中・高級品の出荷が順調。一方、電子ピアノ、PKが苦戦。弦打楽器も期待値を下回る。1月の米国トレードショーでは目標を上回る受注状況。



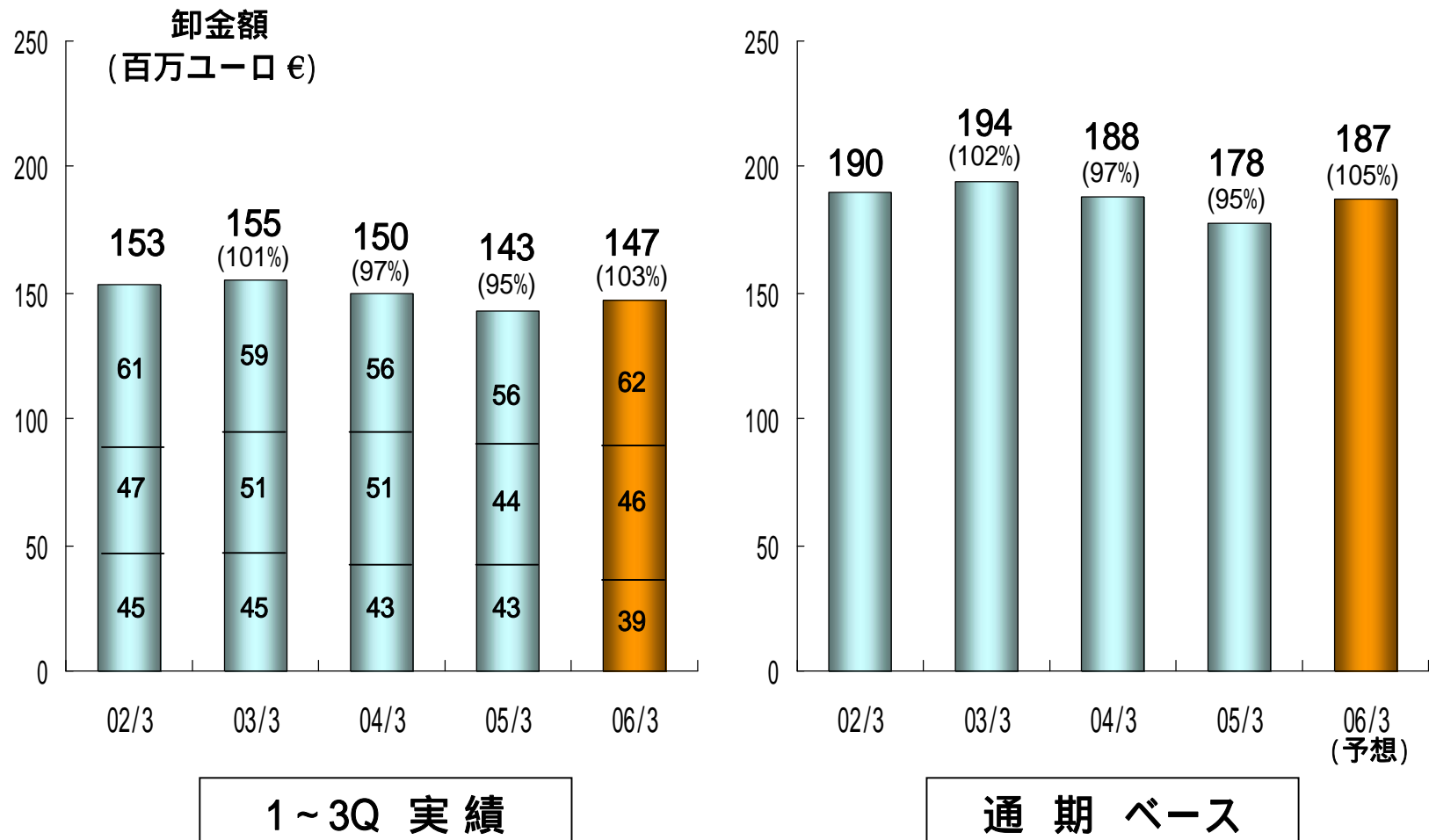
1～3Q 実績

通期ベース

ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



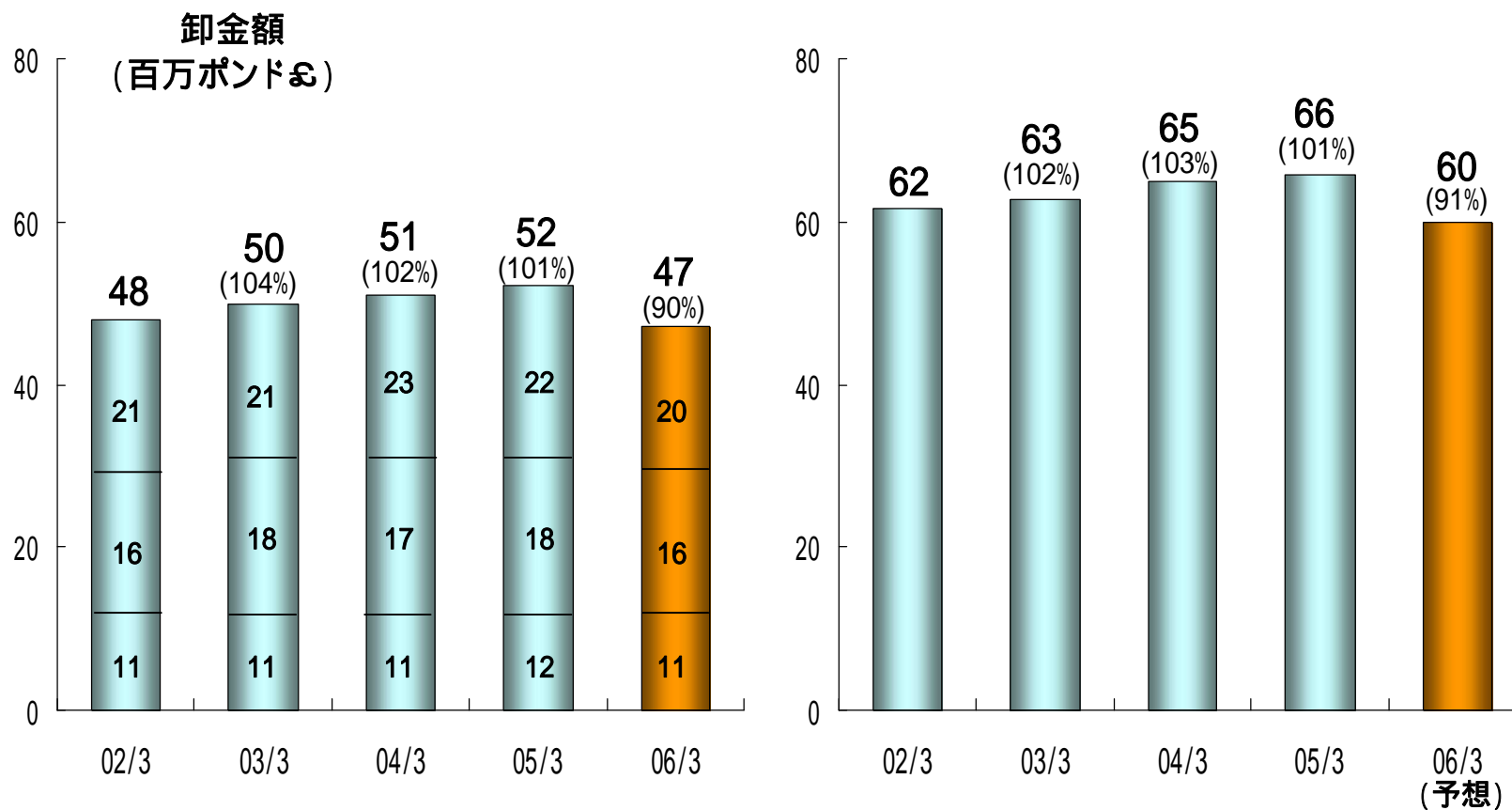
マクロ経済を反映し、小売状況は依然厳しいが、年末に客足が戻りつつあり、前年同期比103%と回復傾向。特に電子ピアノ、キーボード「Tyros2」など電子楽器と新製品のデジタルミキサー「M7CL」が好調。



イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



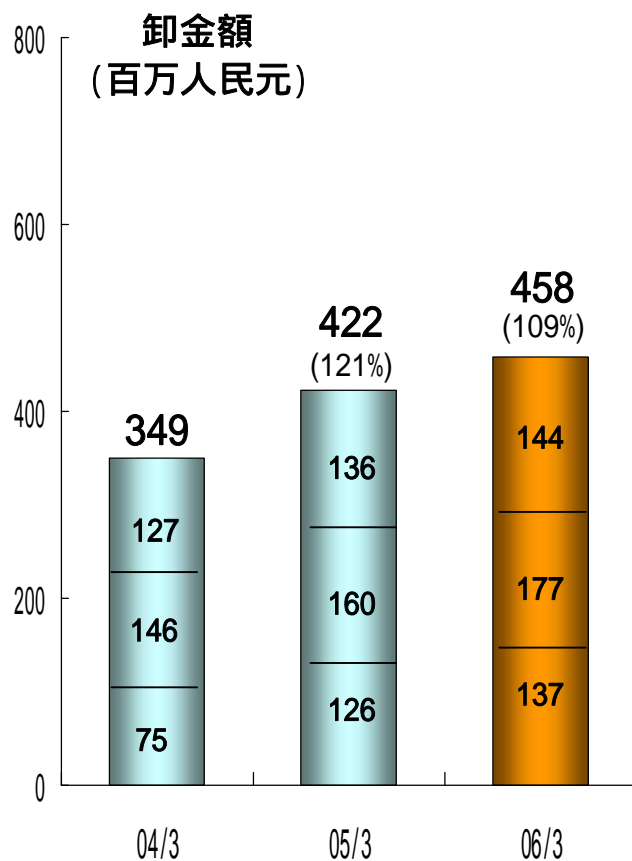
楽器店、マスルートとも小売実販が伸び悩み、楽器全般の売上が依然厳しい。
特に管楽器を中心に安価な中国製の流入が加速している。



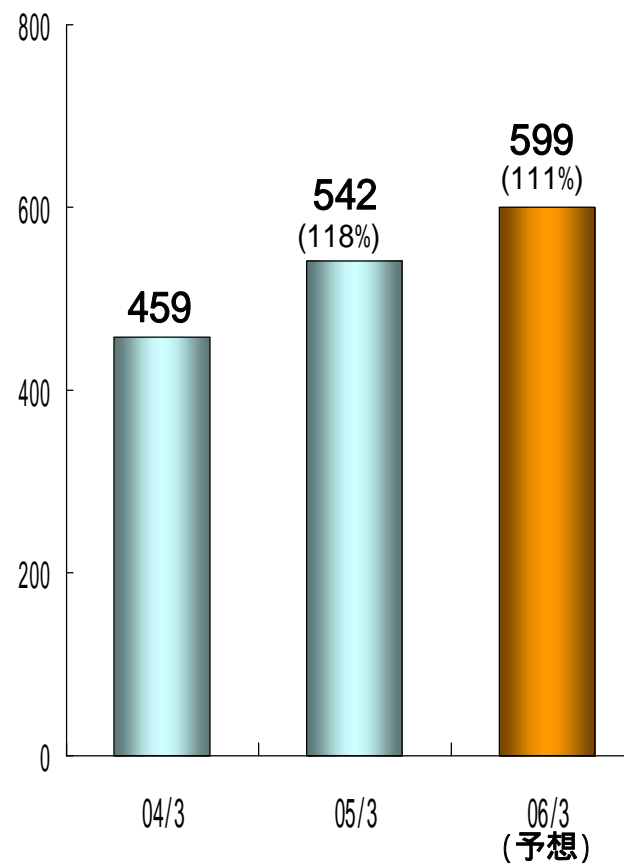
中国市場のヤマハ楽器販売状況



年末商戦が盛り上りに欠けるなか、ピアノ、デジタルミキサーなどの販売が好調、11月に開講した上海の音楽教室は、約200名の生徒が集まりスタート。



1~3Q 実績



通期ベース

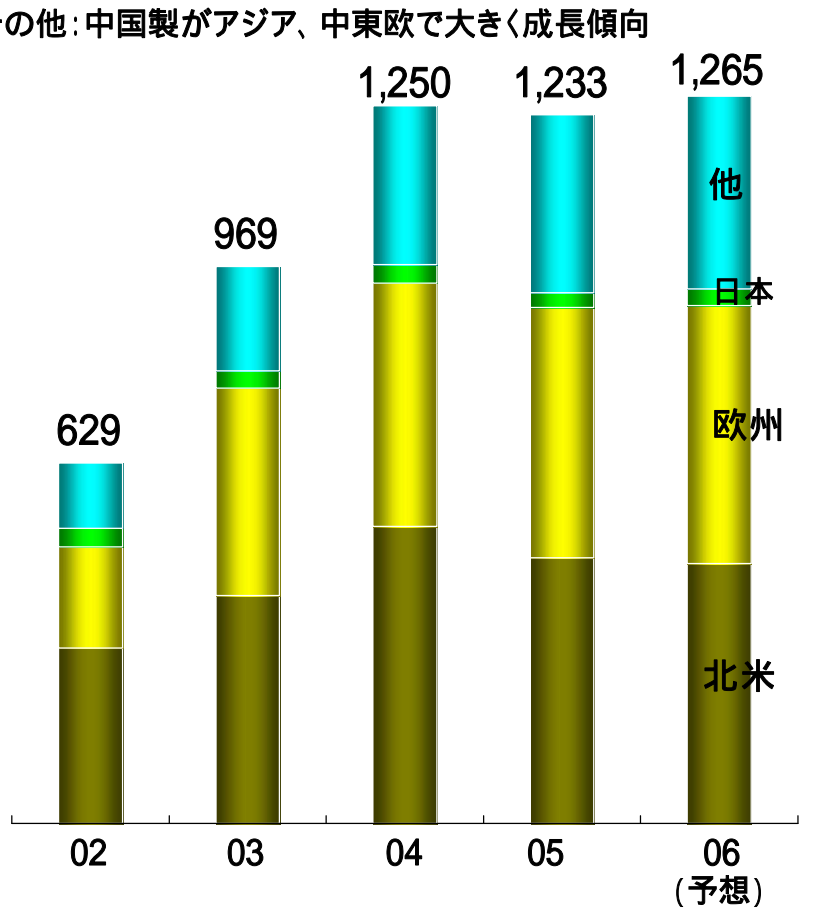
ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム + アンプ・レシーバー)



<ホームシアターシステム>

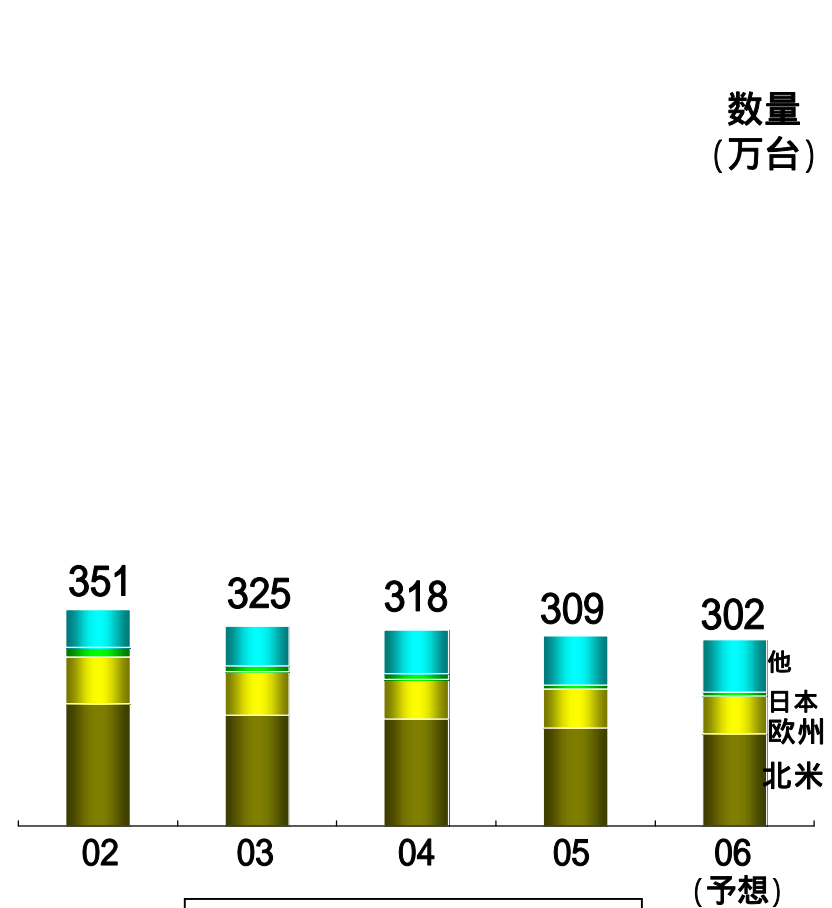
- ・全世界市場規模は横這い
- ・北米: HTiBが縮小傾向となり、DVD内蔵型は微増
- ・欧州: DVD内蔵型が増加傾向へ
- ・日本: 05年は前年より需要が約2割減(27万台)
- ・その他: 中国製がアジア、中東欧で大きく成長傾向



04年以後、北米、日本市場規模修正

<AVアンプ・レシーバー>

- ・全世界では年率2~3%で市場縮小
- ・欧米: 市場は縮小傾向
- ・日本: 05年は金額ベースでヤマハシェアNo.1(31%)
- ・アジア、中国、東欧、ロシアでは低価格品中心に市場拡大

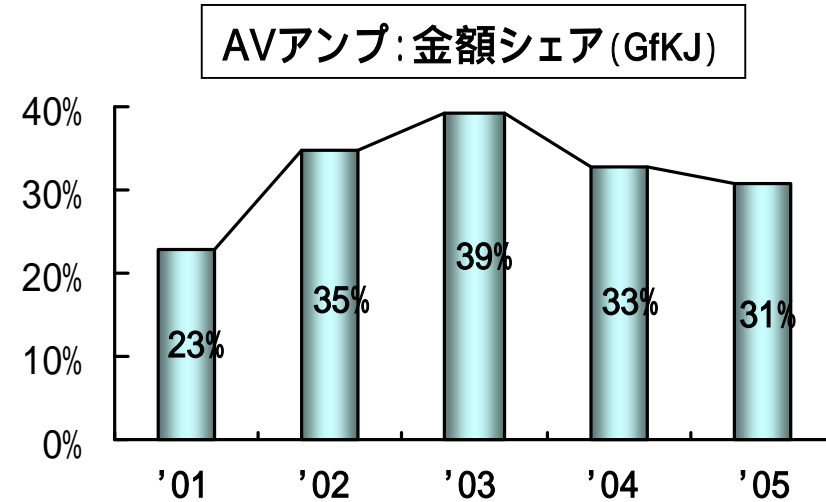
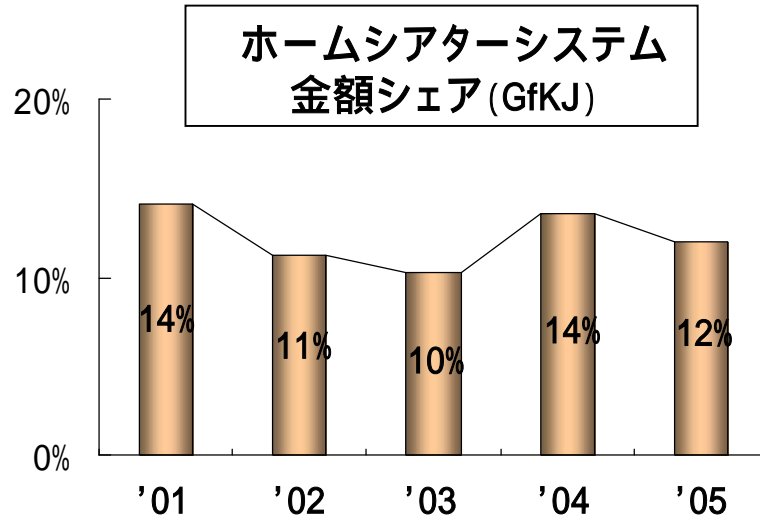


04年以後の北米市場台数修正
(04年 160万台 173万台)

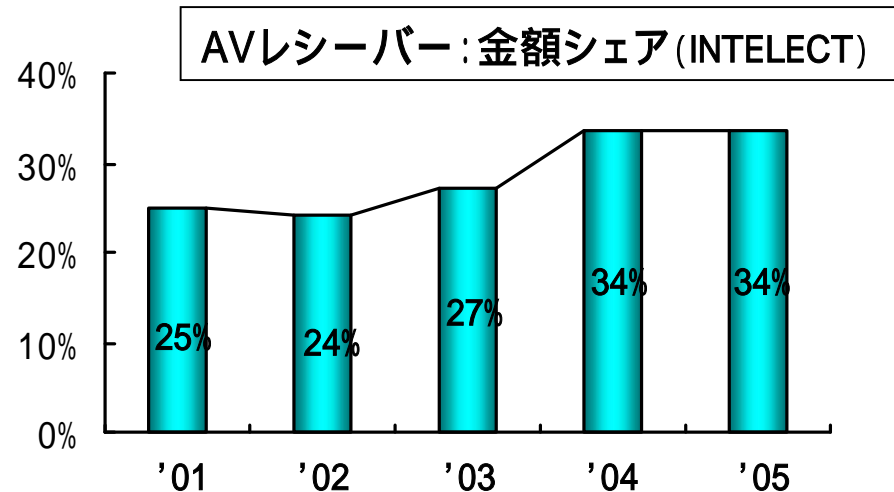
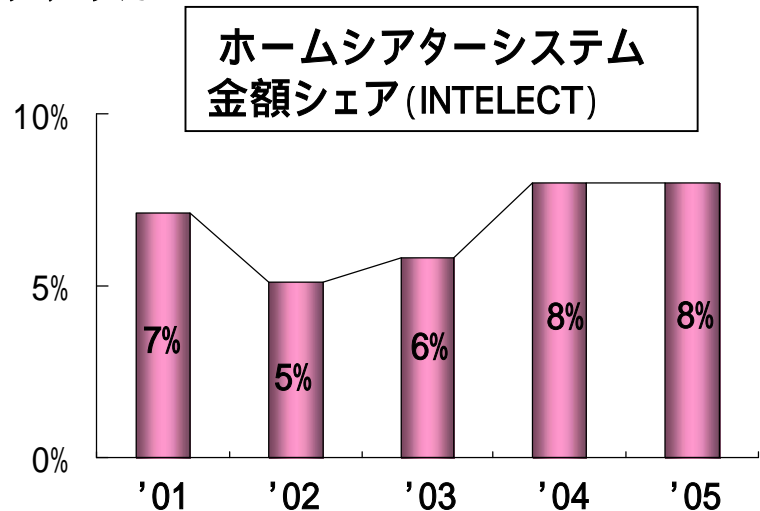
AV マーケットシェア



日本



アメリカ



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。